

軽井沢の木と友達になる

森の案内人 高尾 幸男

2017年8月14日(月)

ブナ（軽井沢ニュース2月号より）

▶「森の女王」といわれる**ブナ**、自然豊かな軽井沢ですがブナを見かけることはまずありません。

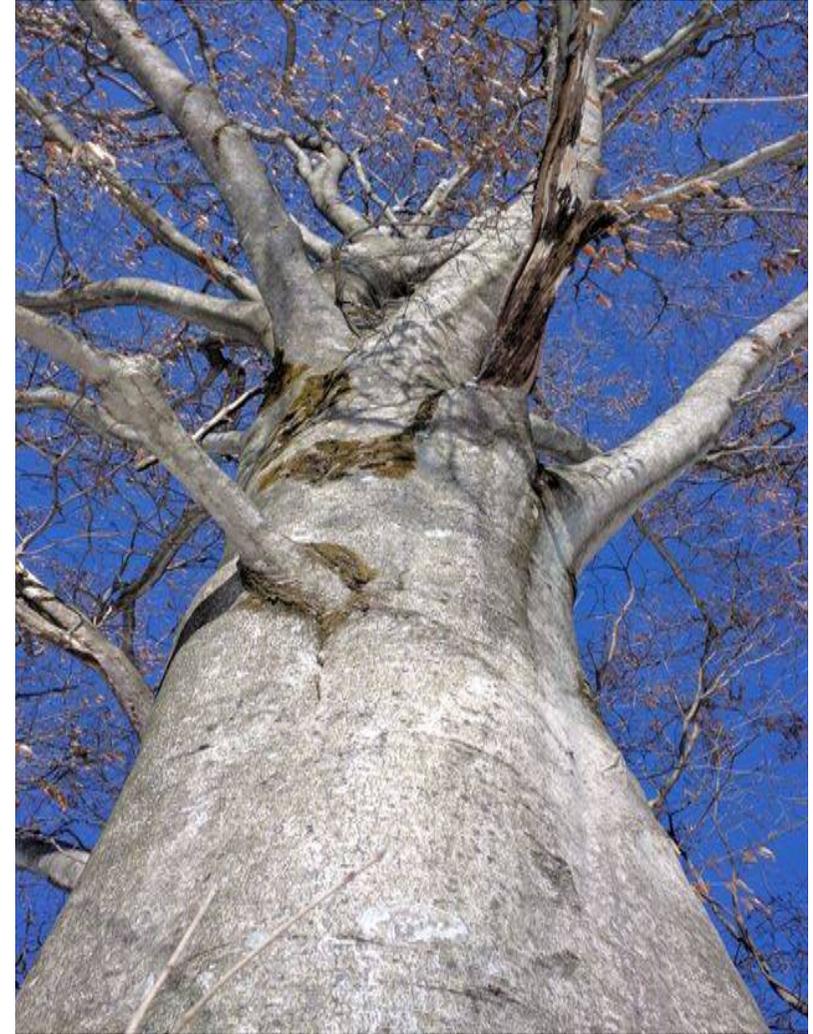
軽井沢町役場の近くにある長倉神社の境内に**ブナ**の大木がありますが、これは人が植えたのでしょうか。

▶軽井沢ではまず見かけない**ブナ**ですが、群馬県境の町の東側の碓氷峠などでは所々で見かけます。

▶なぜ軽井沢には**ブナ**が少なく、県境の群馬県側には自生しているのでしょうか。

▶**ブナ**は多雪地帯の比較的平坦で肥沃な土壌が生育適地です。雪がなく冬乾燥すると**ブナ**の種子は発芽しにくくなります。

▶軽井沢の冬は寒く雪が少なく乾燥していますが、町の東側の山地は、比較的雪が多く根雪になる期間も長く火山活動の影響も少なく土壌も肥沃です。**ブナ**の生育適地である町の東側の山々。その一つが矢ヶ崎山。



写真：矢ヶ崎山のプリンススキー場パラレルコース脇のブナ

- ▶プリンススキー場のリフトに乗ったまま**ブナ**を見ることができます。
残念ながらこの**ブナ**はたった一人。この周辺に他の成木も若木も見当たりません。
- ▶スキー場開設時に一本だけ取り残され、風で飛んでくる他の**ブナ**の花粉も届かず受粉すらままならないのでしょうか。
なんとか肥沃な土壌と人工降雪によって、冬の乾燥から免れ、今は一人ぼっちで生きています。
- ▶森の女王ともいわれる**ブナ**、この**ブナ**を見かけたら友達になってあげてください。





ケヤキ (軽井沢ニュース 3月号より)

▶**ケヤキ**の樹形はこんもりとした円形です。葉はギザギザしていて、燃え上がる火炎土器と似ています。

木目が美しく重要な材として多用されます。

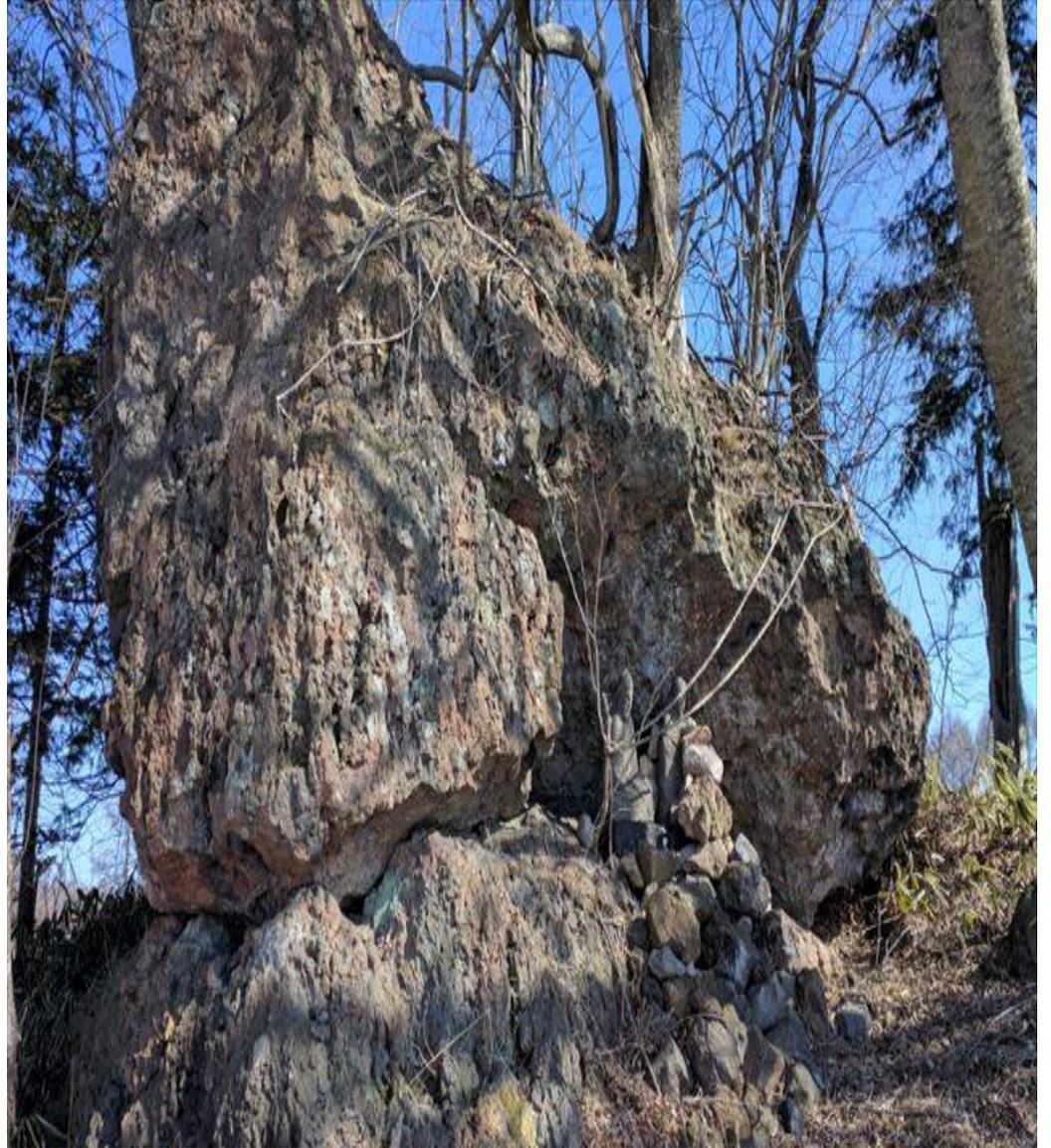
▶**ケヤキ**は川岸などの岩場に自生しますが、よく目にするのは公園や街路樹として植えられている**ケヤキ**です。

▶写真の右は、現在の浅間山、左が小山に自生する**ケヤキ**の大木です。下発地の畑の真中にあるこの小山(塚)は、古い浅間山(黒斑山)が2万4千年前に山体崩壊した時に流れてきた大きな赤岩が長年の風化・凍結破壊作用によって形成された「流れ山」と呼ばれるものです。



- ▶流れ山は佐久平、嬭恋、軽井沢などに現在も沢山残っています。72ゴルフ場内にもあります。
- ▶とてつもなく大量の土石が雪崩れることにより、軽井沢の地形がほぼ平坦になりました。その時に大きな岩の塊が、コロの役目を果たす小さな岩群に乗って、土石なだれの先端にのみ流れ山ができます。
- ▶我々の先人はそれを偉大な自然エネルギーと感じて塚、神社、墓地等として畏怖してきたと思われます。
- ▶この**ケヤキ**が、流れ山の上で何代も何代も更新しながら、浅間山の変化とともに生き続けているとすると興味深いものがあります。





コブシ （軽井沢ニュース4月号より）

- ▶軽井沢の春は、関東地方より1か月遅い春を迎え、暖かくなるのを待ち構えていた花は、いっきに咲き始めます。
- ▶軽井沢の里山は**コブシ**の白、オオヤマザクラのピンク、アブラチャンの黄、ヤマツツジの赤カラマツなどの新緑で彩られ、春霞の中でもザイク模様を織りなし山笑う季節を迎えます。
- ▶軽井沢の春の景観の一つです真っ白な**コブシ**の花は、4月下旬から咲き始めます。
- ▶千昌夫が歌う「北国の春」にも**コブシ**が出てきます。この北国は、作詞者・いではく氏の故郷の長野県南牧村の情景を描いたそうです。



▶軽井沢の**町の木**に指定されている**コブシ**

軽井沢町に何本あるでしょう？ 答えは**2万本**。
軽井沢町の人口とほぼ同数の**コブシ**の木があります。

▶クイズその2. 軽井沢「こぶし教育」とは？

軽井沢町教育大綱の中で、教育理念として

こ → **こころ豊かに、**

ぶ → **ぶんかを育て、**

し → **しぜんを愛する** とあります。

未来の軽井沢を担う「軽井沢っ子」の育成のため、
子供たちの生きる力を育むことを目指しています。

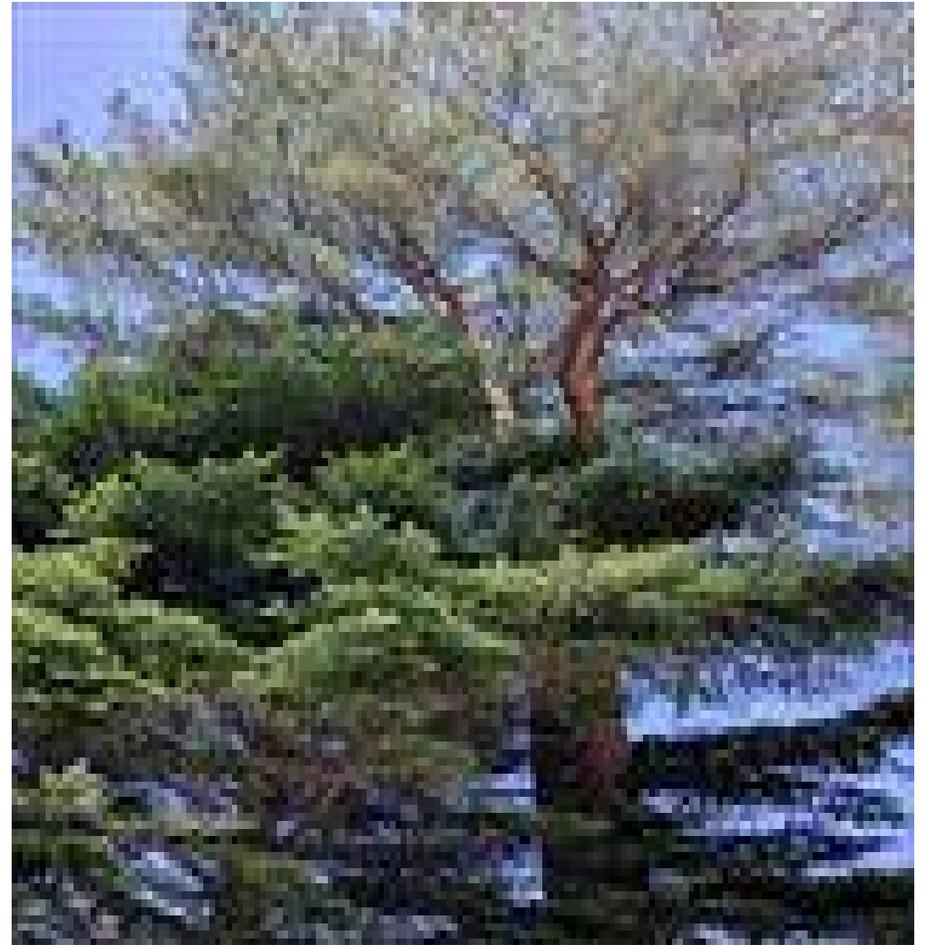
▶オオヤマザクラよりも一足早く咲き、春を告げる**コブシ**の白い花を見ると春の訪れを感じます。

▶**コブシ**の花が満開になるころ冬タイヤから夏タイヤに履き替える人も多いようです。



人工林3兄弟（軽井沢ニュース5月号より）

- ▶写真は、**アカマツ**と**ウラジロモミ**です。**アカマツ**は日当たりの良い場所を好む陽樹で、軽井沢では**カラマツ**とともに人工林の主要樹木です。
- ▶**ウラジロモミ**は別荘地などに植林されています。**ウラジロモミ**は名前の通り葉の裏側に白いストライプが入っています。
- ▶2011（平成23）年は国連が定めた国際森林年でした。その年の秋「オーストリアの林業機械展」とスロバキアのタトラ山系の原生林の視察に参加しました。
- ▶オーストリアの東に位置するスロバキアの人
工林を見学。その森林の景観がなぜか軽井沢の人工林と似ていました。



左：ウラジロモミ

右：アカマツ

▶それもそのはず。植林している樹木は、
軽井沢のアカマツに似ている

「ヨーロッパアカマツ」

軽井沢のカラマツに似ている

「ヨーロッパカラマツ」

軽井沢のウラジロモミに似ている

「ドイツトウヒ」

▶軽井沢の人工林3兄弟とスロベキアの
人工林3兄弟はほぼ同じ仲間の樹木でした。

▶4年に一度の欧州最大級の林業機械展
「オーストロフォーマ」もオーストリア
の一つの山を丸ごと会場としていて、見て
回るのに2日間もかかりました。

▶オーストリアは林業が盛んで、木材を
輸出し、国内ではバイオマス利用を積極
的に進めています。

▶レオーベンという人口2万5千人の小
さな町全体でバイオマスを発電・暖房・
給湯に使っていました。

▶軽井沢町も条件は、ほぼ揃っています。
数百年先を見据えたパラダイムシフト
の時ではないでしょうか。

▶”**軽井沢の豊かな自然**“である生物多様性
や森林資源を維持しながら、自然資源を
多様に活用する仕組みを考えるように
したいものです。

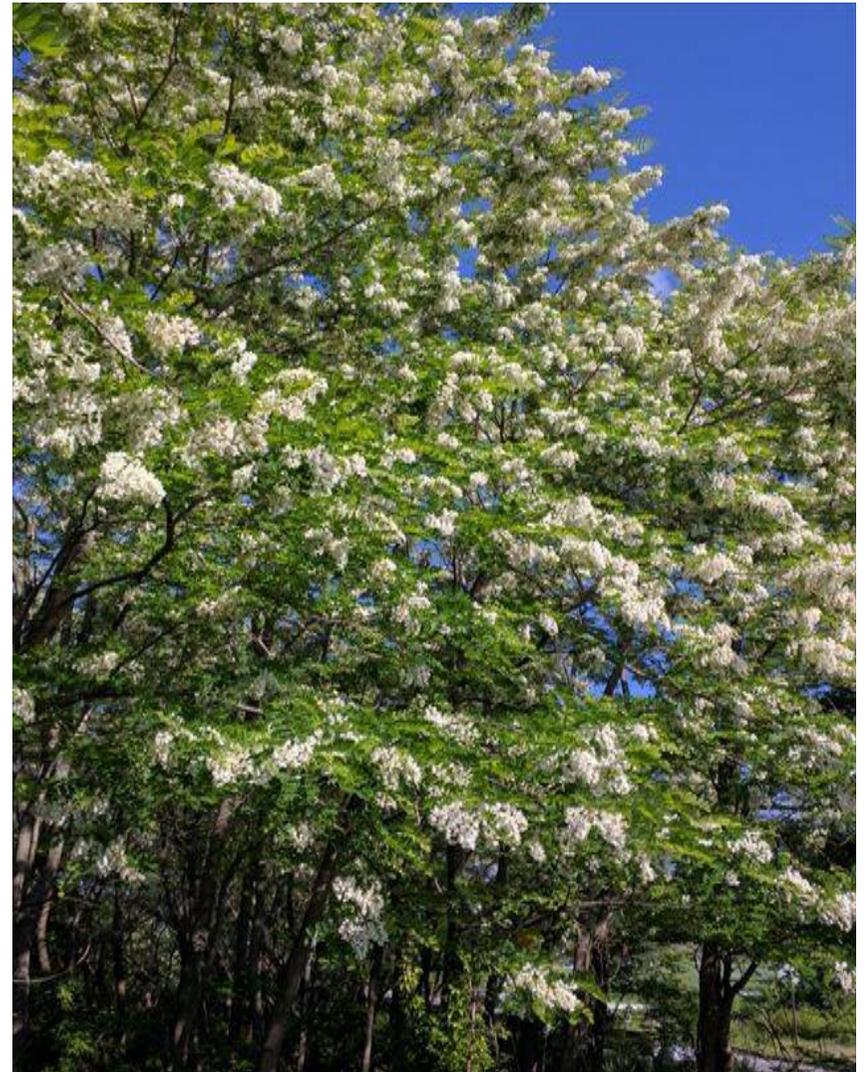
ニセアカシア（軽井沢ニュース6月号より）

▶6月になると白い花をつけた木が目立ちます。その代表が**ニセアカシア**（別名ハリエンジュ）です。軽井沢では、**ニセアカシア**の本数も多く、一本の木にたわわに咲いて、特に目立ちます。写真を撮っている観光客も多く見受けられます。

▶**ニセアカシア**は北米原産の外来種で、マメの仲間です。日本に持ち込まれたのは100年以上前です。当初はこれを**アカシア**と呼んでいましたが、後から本物の**アカシア**が日本に入ってきたため、区別するため**ニセアカシア**

（ハリエンジュ）と呼ぶようになりました。

▶ニセは、「偽」ではなく「**似せ**」からです。アカシアは異なった形の黄色い花をしています。



- ▶**ニセアカシア**の白い花は、マメの仲間特有の蝶の形をした花が房状につき、特有の香りがあります。
- ▶**ニセアカシア**からは、上質なハチミツが採れます。
アカシアハチミツと表示されていますが…
- ▶花房の天ぷらは美味しく、焼酎に漬ければアカシア酒になります。
- ▶困ったことに繁殖力が強く、在来の植物を追いやり、地域の植物多様性を低下させてしまいます。痩せた土地でも根粒菌と共生し成長が早く、伐っても根や切り株から芽が出て成長します。
- ▶崩壊地に植えると土留め効果も高く、薪は火持ちがよく、街路樹や公園にも植えられ、多用途に重宝されますが、他の植物からすると困りものです。



皆様のご清聴
ありがとうございました。
高尾 幸男

軽井沢ニュースバックナンバー
<https://karuizawa-news.org/backnumber>